

## 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」		
実態	成果	課題
	◇「個別の指導計画」を基に生徒に「身に付けさせたい力」を明確にすることで教育活動の中に AAR サイクルの視点を取り入れ、生徒自身に振り返りながら自らの成長や変容を実感させることができた。 ◇ICT 機器等を活用し個々の状況に応じた最適な学習方法を選択しながら、粘り強く課題解決に向かう姿が見られた。 ◇個別最適化した学習支援の成果として、生徒が授業に意欲的に取り組むようになった。	◇生徒の病状により生じる独自の困難や課題を的確に把握し、「本物の経験」となりうる場を創出するための生活体験や課題解決の積み重ねが重要である。 ◇少人数がゆえに、他者との学びの機会が限られる。多様な見方、考え方に触れられる学習場面を学習活動の中に設定することが重要である。 ◇生徒は授業や活動に意欲的に参加しているが、自分の考えを伝えようとする様子はあまり見られない。理由を明確にして分かりやすく伝える力の育成と同時に、失敗を恐れず、結果より挑戦したプロセスを価値付ける働きかけが重要である。
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題		
◇「自治的な活動」として学校行事や生徒会活動の中で生徒間での対話的な学びの機会を多く設定したことから、「自分の気持ちを伝える経験」「相手の違いを認め合う経験」ができた。今後も引き続き生徒の活動を広げ、「自己肯定感」「自己有用感」が得られる学びの場を教育活動の中に設定していくことが重要である。		

### 「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

## 他者と協働しながら、自分らしく主体的に学びに向かう力

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
	(1) 「身に付けさせたい力」を明確にしたカリキュラムマネジメント ⇒生徒の課題を明確にし、個に応じた指導（個別の指導計画を活用） <u>病弱がゆえに起こりうる生活体験や経験の不足を各教科、特別活動、自立活動など様々な学習場面で補う</u> (2) 課題を自分ごととして捉え、他者と協働しながら主体的に学ぶ ⇒小学部との交流・校外学習・学校祭・振り返りシートの活用・他校との交流	①自治的な生徒会活動の充実 ⇒ <u>小学部児童と合同の委員会活動・児童生徒会議の実施し、自分たちの課題を自分たちで考え、解決する場の設定</u> ②自分たちの学習や学校生活を振り返る場の設定 ⇒行事の取組や学校生活について振り返りシートを活用
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について		
◇主に（1）や②について、ひとりひとりの学習状況に寄り添い、教科横断的な視点で個々の学びに合わせた ICT 機器を選択できるような環境を整備する。 ◇主に（2）について、情報や学びの蓄積を可視化し、他者との対話や自己対話など思考が深まる学びの場面で活用する。		

### <本プログラムの実行に向けて>

